

平成 29 年度 ケアハウス 事業計画

【運営方針】

少しでも 長く元気で 自分らしい生活を

【年間目標】

- ① 丁寧な言葉遣いの徹底(接遇力の向上)
- ② 自立支援
- ③ 介護・医療・家族との連携
- ④ サービスの質の向上
- ⑤ 職員育成・環境整備
- ⑥ 安定した稼働

【実践計画】

- ① 丁寧な言葉遣いの徹底(接遇力の向上)
 - ・基本丁寧語で話をする事とする。
 - ・言葉遣いに関して随時見直しを行い、職員間で注意し合う職場を作る。
 - ・入居者・家族・職員に対して笑顔で気持ちのよい挨拶を行う
 - ・丁寧な言葉遣い、安心感を持って頂けるような態度や表情、声のトーンに注意し信頼関係を築けるようケアを行う。
 - ・不快感を与えない清潔感のある身だしなみを整える。
 - ・入居者の気持ちやニーズを把握できるようにコミュニケーションの時間を大切にしていく。
 - ・職員同士でも相手を気遣い、気配り、思いやりの気持ちを持ちチームで取り組む。
 - ・職員間で「報・連・相」がしっかりできるようコミュニケーションをとり職員間の連携の強化を図る。
 - ・サービスの質の向上を一人一人が意識し職員同士で注意しあえる環境を作ります。
- ② 自立支援
個人の能力を見極め、生活する上で必要な援助を提案していく。

[食事]

入居者の意見を参考に、月/1回食事委員会で検討。

季節、風習を感じて頂けるメニューの提案。

松花堂弁当 月/2回実施。

嚥下状態を観察しながら 軟菜食等、食事形態を検討。

行事のテーマに沿った食事・デザートを提供。

[排泄]

きめ細やかな排泄援助、個人の尊厳、プライバシーに配慮する。
個人の残存能力に合わせた援助を行う。

[入浴]

毎日実施。安全に気持ち良く入浴して頂く。
血圧変動、気分不良、転倒等身体状況に十分注意を払う。

[機能訓練]

自立支援を念頭におき、介護予防、現状の維持へと導いていく。
午前中・昼食前等、嚥下体操・集団リハビリを実施する。

[リハビリ]

機能訓練士を中心に実施。
医師・看護師・介護士と連携。
個別対応リハビリ計画を実施していく。
希望者には外部により機能訓練を実施し、施設と連携を図っていく。

[口腔ケアの推進]

咀嚼の向上と維持、誤嚥性肺炎の防止。
歯科医、歯科衛生士との連携をはかる。

[レクリエーション、クラブ活動]

頭と体を使うレクリエーション・カラオケを中心に取り入れる。
リフレッシュも兼ねて散歩、朝のラジオ体操を実施。
クラブ活動は趣味を活かし、様々なものを取り入れる。
安全に楽しんで頂き体調の維持に繋げていく。

[ボランティアの受け入れ]

華道・書道・は引き続き実施。(月/1回)
単発で受け入れも随時導入していく。

[買い物]

毎週2回の買い物便、買い物代行実施。(月・木)
一人では外出不可の方への付き添い援助も定期的に行う。

[外出・外食行事]

初詣、花見など外出行事の実施。また定期的に外食行事を実施する。

入居者の希望等を伺い計画の実行へと繋げていく。

インフルエンザや風邪が流行した際は外出行事を中止させて頂く場合があり施設内行事を実施させて頂く。

[洗濯物・配茶]

どちらも自分で出来る範囲はして頂き、状態を見極め援助する。

[受診送迎・付き添い]

神戸市内限定で引き続き、有料で実施する。

入居者の精神身体状態によって付き添いを行う。

[送迎]

今後も無料シャトルを継続し、1人で外出可能な方は利用して頂く。

[衣料販売]

1回/3ヶ月の割合で実施する。

[お知らせについて]

1ヶ月に1回発行、情報提供・皆様へのお知らせ等を提案する。

[意見交換の場の提供]

皆様の声やアンケートなどを基にし、年1回懇親会の実施。

③ 介護・医療・家族との連携

生活状況・身体状況等、介護・医療間での共有をはかり、連携をより密に行う。

④ サービスの質の向上

入居者のニーズをしっかりと把握、日々の生活に良質なサービスを提供する。

事故・ヒヤリハットを検証、見通し、原因を把握し、事故防止に努める。

⑤ 職員育成・環境整備

- ・業務の基本をまず習得する
- ・専門職としての誇りを持って臨む
- ・職員全員が援助者であると認識して仕事に取り組む
- ・相手の立場に立ち、物事をとらえる
- ・リスクマネジメントの意識
- ・毎月、職員会議を実施し問題点、課題を検討。業務改善を行う事で職場環境の整備を行う。

- ・ 施設備品、水光熱節約の意識

⑥ 安定した稼働

- ・ 早期発見、入院者を減らす
- ・ 早期入居希望者へのアプローチをし、スムーズな入居をめざす
- ・ 常に質の高いサービス提供